

第三号

# 藤 玉

玉 藻 第三号 目 次

萬葉集二三七四「歳経管」の訓について……………	後藤和彦……………	1
萬葉集卷三・四・六・八の用字……………	瀬古 確……………	7
領巾の別れ……………	松永多恵子……………	14
レトリックからみた梶井文学……………	鈴木二三雄……………	21
——譬喩を中心に——……………		
『白樺』のふたつの個性……………	遠藤 祐……………	33
——武者小路実篤と志賀直哉——……………		
正徹と五山文学ノート……………	小泉 和……………	44
——胡蝶の歌十二首と横川景三——……………		

「白百合女子大学紀要」第二号、第三号

白百合女子大学

「成蹊大学文学部紀要」第三号 成蹊大学

「同志社国文学」第三号 同志社大学

「国文学」第四十一号、第四十二号

関西大学

「山辺道」第十三号

天理大学

「文学部紀要」Ⅲ 梅花女子大学

「樟蔭国文学」第五号 大阪樟蔭女子大学

「甲南国文」第十四、十五号 甲南女子大学

「紀要」第一卷第一号、第二号

ノートルダム清心女子大学

「東海大学紀要」第八輯 東海大学

「立教大学日本文学」第十八号、第十九号 立教大学

「短大論叢」第三十、三十一、三十二集

関東学院女子短期大学

「日本文学」第二十九号、第三十号

東京女子大学

「金城学院大学論集」第三十一号

金城学院大学

「金城国文」第十三卷第二号

同 右 東京大学

「論集」第XVII卷第2号

「文林」第一号、第二号 松蔭女子大学  
「国文学研究」第二、三号

梅光女学院短期大学

「人文科学紀要」第39輯第、44輯 東京大学

「文学論藻」第36号 東洋大学

「日本文芸論稿」創刊号 東北大学

「専修国文」第二号、第三号 専修大学

「薩摩路」第十二号 鹿児島大学

「国語国文学会誌」第十一号 学習院大学

「紀要」第四号 昭和学院短期大学

編 集 後 記

例年のことながら三月発行の予定が、入試其他の雑用に妨げられ、原稿の集りが悪かった為心ならずも本号の発行が大変遅れてしまった。

しかし延ばした甲斐があつて瀬古教授を初めとして松永助手に至るまで専任全部の力作が出揃うことができた。昭和四十三年度は前期一回、後期一回は刊行する予定で大いに頑張るつもりである。近世文学の圃

雅彦専任講師が来任されて研究室も一層充実した感じである。次号の充実振りを大いに期待して欲しい。

玉 藻 第三号

昭和四十三年五月二十日 印刷  
昭和四十三年五月二十五日 発行

編輯兼 フェリス女学院大学国文学会  
発行人 代表者 瀬 古 確

印刷人 樋 口 泰 一

横浜市中区山手町三七

発行所 フェリス女学院大学  
国 文 学 会

製作 郁文社